



一般質問 **なみかた まこと** 波方 真如 議員

## 常識が通用しない・いま備えるべきことは

### 町長 より実践的な訓練を実施し、町の災害対応力の向上に努める

**問**  
昨年、台風21号が上陸、すぐに胆振東部地震が発生し、倶知安町全域も停電となったが、その時にとった災害対策について反省点や指摘、その内容と現在の改善状況を伺う。

**町長**

反省点としては、今までに例を見ない大停電、いわゆるブラックアウトに直面し、不安を覚えている町民の皆様を受け入れる自主避難所、また携帯電話充電サービス所、これらが開設できなかったことである。

今後は大規模停電時などの直接的被害が発生しない場合においても、不安を抱えた自主避難者が集まれる自主避難所を速やかに開設できるように、保健福祉会館に防災備品を備蓄するなど、早期開設に向けた体制づくりを進めている。

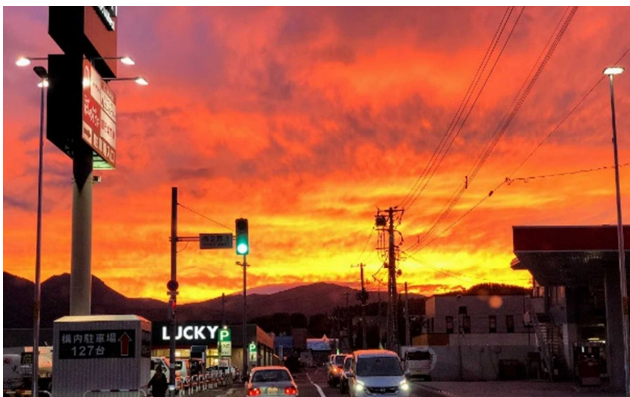
地域防災計画においてそれらは定められてはいるが、各要員がどのように行動するのかが細部まで定められていないため、初動対応が上手く機能しない面もあり、それらについて地域防災計画や職員初動マニュアルに反映させたい。

また、口頃から職員の対応能

力向上のため、災害対策本部運営上、図上訓練を実施したところである。これらを土台として、今後、より実践的な訓練を実施し、町の災害対応力の向上に努めていく。

**問**

流通備蓄食料に関して防災協定を結ぼうとしているとは言うものの、考えているだけではなく、いつまでにきちんとしたいということを答えて頂きたい。



停電復旧2日後の夕日 (2018年9月9日)

**危機管理室長**

備蓄品の輸送力の車両の問題は、町として車両は十分に持っている。当然、輸送力が不足と認識している。これについては、町内等の輸送業者と協定を結び、災害時の輸送力を確保できるよう検討していきたい。

2点目の食料品の流通備蓄確保のための協定は、町内のスーパー、食品業者等と協定を結び、いざという時の食料を確保するよう準備を進めているところ。

**問**

子どものための防犯対策をいま一度見直す時期だと考える。

具体的には、子どもの目線でしっかりと見ること。「こども10番の家」の強化、ステッカーやのぼりの交換・新設、防犯カメラ設置促進、呼び笛や防犯ブザーに変わるGPS付の緊急発報装置の貸し出し等を検討するべき。

**住民環境課長**

SOSステーションは適切な場所にあるか否か調査すべきとのことだが、平成19年度の指定において、子どもの通学



大切な笑顔を守ります

路、遊び場所、あるいはライフスタイル等を勘案し、使用道路沿いの建物で昼夜を問わず世帯の方が在宅していることが多く、アパートやマンション以外の世帯並びに事業所を町で選定して、承諾をさせていただいた方に指定させていただいている。平成27年度においては、継続して承諾をいただき、現在は88件。その後の27年度以降については調査等は行われていないが、拡充も含めて確認作業を今後継続していきたい。